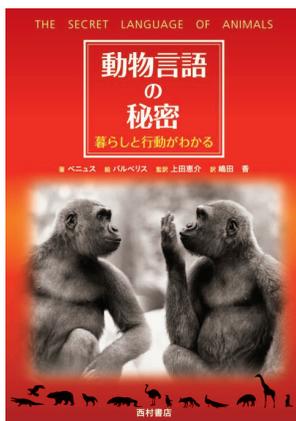


書評「動物言語の秘密 暮らしと行動がわかる」

森本 元 (公益財団法人山階鳥類研究所)*

ジャンニン・M. ベニユス (著), フアン・C. バルベリス (イラスト), Janine M. Benyus (原著),
Juan Carlos Barberis (原著), 上田恵介 (翻訳), 嶋田 香 (翻訳),
509頁, 西村書店, 2016年 8 月, ISBN : 978-4890137572



子供の頃、「動物の言葉が分かってみたい」と考えたことは、きっと誰もが一度はある経験ではないかと思う。本書はそんなことを連想させるタイトルの1冊だ。動物の言葉を理解するというと、「ソロモンの指輪」を頭に思い浮かべる読者も多いだろう。動物の言葉がわかる魔法の指輪である「ソロモンの指輪」は、キリスト教の偽典(聖書に含まれない古い文書)の一つである「ソロモン書」に出てくる、動物と会話が出来るといふ魔法の指輪である。そしてその名を冠した書籍は、かの有名なコンラート・ローレンツによる著書であった。水鳥が卵から孵化した際に、はじめて見た相手を親だと思ひ込む「刷り込み」の発見などで有名な動物学者であるローレンツは、動物行動学の祖であり、行動学的観察によってまるで指輪で動物と会話をしたかのように、動物行動の意味を探ったのである。

さて本書「動物言語の秘密」も、それに似たタイトルと内容の関連性を持つ1冊だ。本書はタイトルだけを見た時点では、サルがキーと鳴いたら警戒声で、ウキヤキヤと鳴くのは笑い声・・・というようなものを想像するかもしれないが、そうではない。本書は音声の書籍ではなく、動物行動学に関する書籍である。さらにいえば、動物園に焦点を当てているという点でユニークだ。著者であるジャンニン・M. ベニユスは、本書を二部で構成している。前半は【入門編】として、動物の行動全般、動物園が果たしてきた役割や歴史、現代における動物園の役割といった、一般向けの分かりやすい解説によって、読みやすい導入部となっている。そして、野外で観察できる動物の行動だけではなく、動物園内で見ることが出来る行動についても触れられており、読者が現場での観察眼を養うための基礎知識を提供してくれる。次に、【観察編】として、いくつかの種について、具体的かつ詳細な行動についての解説がある。例えば、鳴き声や表情の意味、遊びや食事、繁殖や育児といった行動の記述が詳細に展開される。取り上げられている対象種には、読者が動物園で観察可能な有名な種について、分類群を問わず選んでいるようであり、具体的にはゴリラ/ライオン/アフリカゾウ/サバンナシマウマ

／クロサイ／キリン／ダチョウ／オオフラミンゴ／ナイルワニ／ジャイアントパンダ／クジャク／コモドオオトカゲ／ハンドウイルカ／カリフォルニアアシカ／ハイイロオオカミ／ハクトウワシ／カナダヅル／シロイルカ／ホッキョクグマ／アデリーペンギンが取り上げられている。大きな動物園であれば、これらいずれかの種は必ず飼育されているはずである。もし読者が本書片手に動物園に行き、本書の内容を確認しながらこれらの動物種の行動を観察すれば、各行動の意味を現場で学ぶことができるだろう。

行動とは、いわば動物にとっての社会的信号の一つである。例えば、我々日本人が手を振れば、それは相手への挨拶を意味する。「こんにちは」という音声を使わずとも、行動で意思疎通を行うことは可能なのだ。いわば、行動は個体間のコミュニケーションのための信号であり言葉といえよう。そして本書はそうしたものを扱っているのである。タイトルは「動物言語の秘密」だが、原題は“The Secret Language of Animals: A Guide to Remarkable Behavior”であり、直訳すれば「動物の秘密の言語」である。原題は邦題以上に、本書の内容をよく表現したタイトルといえる。

前述したように、本書は二部構成となっており、後半の【観察編】では、様々な種の行動が取り上げられている。その中から、鳥類のクジャクを例に紹介すると、移動、採食、飲水、羽毛の手入れ、体温調節、睡眠といった、基本的な解説が最初に続く。その後、社会行動として、共同ねぐら、共同防衛、対立行動における威嚇、闘争、性行動における求愛、交尾、育児行動における造巢、抱卵と給餌、人間との関係といった関連した話題などの解説がある。さらに、動物園と自然界で見られる行動が一覧表になっており、行動観察するポイントが分かりやすく整理されている。このような具合に、各生物種について、それぞれの特徴的な興味深い行動や生態を学ぶことができる。

本書は動物行動に関する読み物的な書籍であり、読者が動物園で観察を行うことを想定した内容だが、その考え方は、動物園内での動物観察に限らず、野外での野鳥観察や鳥類の行動生態学研究にもそのまま適用できるものである。本書の冒頭において寄せ書きをしている認知行動学者のアレクサンドラ・ホロウィッツは、「本書を読めばアマチュア行動学者も、本格的な動物観察を出来るようになるだろう」と述べているが、まさにその通りと感じた。動物園好きの人々だけでなく、バードウォッチャーが鳥類とのつき合い方の幅を広げるために、プロからアマチュアまで、有用な1冊といえよう。